

デルに関する項目は3群間において得点に有意差が認められなかった。属性の影響を受けていることが排除できない中で、これらの項目に有意差がみとめられなかったという結果は、非常に興味深い。

本研究は、日本で初めてコンピテンシーという概念を導入して、管理栄養士養成における専門的実践能力の到達度を評価した研究である。しかし、年齢や社会人経験といった属性がバイアスとなっている可能性があるため、今後これらの交絡要因を調整した解析が必要である。

E. 結論（まとめ）

大学院生を平成16年度以前卒業生（旧カリ卒業生）、平成17年度以降卒業生（新カリ卒業生）、管理栄養士養成施設卒業生でない者（その他卒業生）の3群に分けて解析を行った結果、新カリ卒業生は21-25歳が9割を占めていたが、旧カリ卒業生とその他の卒業生は、26歳以上の割合が多く、また、大部分が社会人院生であった。また、旧カリ卒業生は3群間比較において高い点数を示す項目が多くみられた。一方で、3群間で差がみられなかった項目は、基本コンピテンシーのうち、「食を通して人々の健康と幸せに寄与したい」や「対象者の行動変容を促すために、行動科学の理論やモデルを活用する」、その他、調査研究に関する項目であった。3群間において、多くのコンピテンシー項目の平均点数に有意差が認められたという結果には、3群間の属性の違いが影響していると考えられる。

F. 参考文献

1) 永井成美, 赤松利恵, 長幡友実: コンピテンシー開発の考え方と枠組み (国内外の文献レビュー), 厚生労働科学研究費補助金循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業「保健・医療サービスの評価に基づく専門的人材育成のシステム構築に関する研究」平成22年度総括・分担研究報告書 (伊達ちぐさ), pp.55-123 (2010), 兵庫

2) 長幡友実, 吉池信男, 赤松利恵, 永井成美, 石田裕美, 小松龍史, 中坊幸弘, 奈良信雄, 伊達ちぐさ. 管理栄養士養成課程学生の卒業時点におけるコンピテンシー到達度. 栄養学雑誌, (印刷中)

G. 研究発表

1. 論文発表

1) 永井成美, 赤松利恵, 長幡友実, 吉池信男, 石田裕美, 小松龍史, 中坊幸弘, 奈良信雄, 伊達ちぐさ. 卒前教育レベルの管理栄養士のコンピテンシー測定項目の開発. 栄養学雑誌, 70, 49-58 (2012)

2) 赤松利恵, 永井成美, 長幡友実, 吉池信男, 石田裕美, 小松龍史, 中坊幸弘, 奈良信雄, 伊達ちぐさ. 管理栄養士に関する基本コンピテンシーの高い学生の特徴—卒業年次の学生の自己評価による調査結果の解析—. 栄養学雑誌, (印刷中)

3) 長幡友実, 吉池信男, 赤松利恵, 永井成美, 石田裕美, 小松龍史, 中坊幸弘, 奈良信雄, 伊達ちぐさ. 管理栄養士養成課程学生の卒業時点におけるコンピテンシー到達度. 栄養学雑誌, (印刷中)

2. 学会発表

1) 赤松利恵, 永井成美, 長幡友実, 中坊幸弘, 吉池信男, 石田裕美, 小松龍史, 伊達ちぐさ. 管理栄養士に関する基本コンピテンシーの高い学生の特徴—卒業年次の学生の自己評価による調査結果の解析—. 第58回日本栄養改善学会学術総会, 2011年9月8日~10日, 広島

2) 永井成美, 赤松利恵, 長幡友実, 中坊幸弘, 吉池信男, 石田裕美, 小松龍史, 伊達ちぐさ. 管理栄養士養成教育の到達度把握の試み—コンピテンシーの概念を導入して—. 第58回日本栄養改善学会学術総会, 2011年9月8日~10日, 広島

3) 長幡友実, 赤松利恵, 永井成美, 中坊幸弘,

吉池信男, 石田裕美, 小松龍史, 伊達ちぐさ.
管理栄養士養成教育の到達度に関する検討—卒業年次の学生および教員に対する調査結果から—.
第 58 回日本栄養改善学会学術総会, 2011 年 9 月 8 日~10 日, 広島

4) 赤松利恵, 吉池信男, 石田裕美, 伊達ちぐさ.
管理栄養士・栄養士の資格を活かした就職内定者のコンピテンシーに関する研究. 第 70 回日本公衆衛生学会総会, 2011 年 10 月 19 日~21 日, 秋田

H. 知的所有権の取得状況

なし

I. 利益相反

なし

表1 大学院生3群間の属性の比較*

	全体	平成16年度 以前卒業	平成17年度 以降卒業	管理栄養士 養成施設卒 業でない	χ^2 値(自由度)	p 値
年齢					312.521 (8)	<0.001
21-25 歳	356 (78.1)	1 (2.9)	346 (93.0)	9 (18.4)		
26-30 歳	20 (4.4)	2 (5.7)	14 (3.8)	4 (8.2)		
31-35 歳	19 (4.2)	8 (22.9)	5 (1.3)	6 (12.2)		
36-40 歳	22 (4.8)	6 (17.1)	4 (1.1)	12 (24.5)		
40 歳以上	39 (8.6)	18 (51.4)	3 (0.8)	18 (36.7)		
	456 (100.0)	35 (100.0)	472 (100.0)	49 (100.0)		
性別					7.329 (2)	0.026
女性	366 (80.3)	33 (94.3)	290 (78.0)	43 (87.8)		
男性	90 (19.7)	2 (5.7)	82 (22.0)	6 (12.2)		
	456 (100.0)	35 (100.0)	372 (100.0)	49 (100.0)		
大学院在籍年数					33.196 (6)	<0.001
1 年目	234 (51.3)	17 (48.6)	195 (52.4)	22 (44.9)		
2 年目	212 (46.5)	14 (40.0)	175 (47.0)	23 (46.9)		
3 年目	9 (2.0)	4 (11.4)	2 (0.5)	3 (6.1)		
4 年目	1 (0.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.0)		
	456 (100.0)	35 (100.0)	372 (100.0)	49 (100.0)		
卒業研究の実施					61.685 (2)	<0.001
有り	393 (88.5)	26 (78.8)	340 (93.7)	27 (56.3)		
無し	51 (11.5)	7 (21.2)	23 (6.3)	21 (43.8)		
	444 (100.0)	33 (100.0)	363 (100.0)	48 (100.0)		
社会人院生か					302.071(2)	<0.001
はい	82 (18.4)	33 (97.1)	14 (3.8)	35 (79.5)		
いいえ	364 (81.6)	1 (2.9)	354 (96.2)	9 (20.5)		
	446 (100.0)	34 (100.0)	368 (100.0)	44 (100.0)		
社会人院生の方:職種					0.041 (2)	0.979
管理栄養士として勤務	61 (75.3)	25 (75.8)	10 (76.9)	26 (74.3)		
管理栄養士ではない	20 (24.7)	8 (24.2)	3 (23.1)	9 (25.7)		
	81 (100.0)	33 (100.0)	13 (100.0)	35 (100.0)		

* n (%), χ^2 検定

表1 (続き) 大学院生3群間の属性の比較*

	全体	平成16年度 以前卒業	平成17年度 以降卒業	管理栄養士 養成施設卒 業でない	χ^2 値(自由度)	p値
修士論文テーマ					49.721 (8)	<0.001
栄養教育	21 (4.6)	2 (5.7)	16 (4.3)	3 (6.1)		
公衆栄養	47 (10.3)	6 (17.1)	28 (7.5)	13 (26.5)		
臨床栄養	88 (19.3)	13 (37.1)	59 (15.9)	16 (32.7)		
給食経営管理	6 (1.3)	1 (2.9)	3 (0.8)	2 (4.1)		
それ以外	294 (64.5)	13 (37.1)	266 (71.5)	15 (30.6)		
	456 (100.0)	35 (100.0)	372 (100.0)	49 (100.0)		
指導教員					10.886 (2)	0.004
管理栄養士	174 (38.2)	17 (48.6)	129 (34.8)	28 (57.1)		
それ以外	281 (61.8)	18 (51.4)	242 (65.2)	21 (42.9)		
	455 (100.0)	35 (100.0)	371 (100.0)	49 (100.0)		
所属コースの人材養成					30.431 (6)	<0.001
教育者・研究者養成	191 (42.1)	15 (42.9)	161 (43.5)	15 (30.6)		
高度専門職業人養成	88 (19.4)	13 (37.1)	55 (14.9)	20 (40.8)		
どちらともいえない	111 (24.4)	6 (17.1)	94 (25.4)	11 (22.4)		
不明	64 (14.1)	1 (2.9)	60 (16.2)	3 (6.1)		
	454 (100.0)	35 (100.0)	370 (100.0)	49 (100.0)		
日本栄養士会					169.203 (2)	<0.001
入会している	103 (22.6)	28 (80.0)	39 (10.5)	36 (73.5)		
入会していない	352 (77.4)	7 (20.0)	332 (89.5)	13 (26.5)		
	455 (100.0)	35 (100.0)	371 (100.0)	49 (100.0)		
学会(研究会)					21.275 (2)	<0.001
入会している	324 (71.1)	32 (91.4)	247 (66.4)	45 (91.8)		
入会していない	132 (28.9)	3 (8.6)	125 (33.6)	4 (8.2)		
	456 (100.0)	35 (100.0)	372 (100.0)	49 (100.0)		
学会発表経験					6.590 (4)	0.159
第一著者として発表	234 (51.4)	19 (55.9)	184 (49.5)	31 (63.3)		
共著として発表	38 (8.4)	3 (8.8)	29 (7.8)	6 (12.2)		
発表経験なし	183 (40.2)	12 (35.3)	159 (42.7)	12 (24.5)		
	455 (100.0)	34 (100.0)	372 (100.0)	49 (100.0)		
論文投稿経験					17.036 (4)	0.002
第一著者として投稿	34 (7.5)	7 (20.6)	22 (5.9)	5 (10.2)		
共著として投稿	33 (7.3)	5 (14.7)	22 (5.9)	6 (12.2)		
投稿経験なし	387 (85.2)	22 (64.7)	327 (88.1)	38 (77.6)		
	454 (100.0)	34 (100.0)	371 (100.0)	49 (100.0)		

* n (%), χ^2 検定

表 1 (続き) 大学院生 3 群間の属性の比較*

	全体	平成 16 年度 以前卒業	平成 17 年度 以降卒業	管理栄養士 養成施設卒 業でない	χ^2 値(自由度)	p 値
修了後の進路					8.305 (4)	0.081
進学	36 (8.0)	4 (11.8)	28 (7.6)	4 (8.3)		
就職	398 (88.2)	28 (82.4)	331 (89.7)	39 (81.3)		
その他	17 (3.8)	2 (5.9)	10 (2.7)	5 (10.4)		
	451 (100.0)	34 (100.0)	369 (100.0)	48 (100.0)		
進学希望の方:進学先					1.360 (4)	0.851
博士課程 (栄養関連)	29 (80.6)	3 (75.0)	22 (78.6)	4 (100.0)		
博士課程 (栄養関連以外)	6 (16.7)	1 (25.0)	5 (17.9)	0 (0.0)		
その他	1 (2.8)	0 (0.0)	1 (3.6)	0 (0.0)		
	36 (100.0)	4 (100.0)	28 (100.0)	4 (100.0)		
就職希望の方:採用条件					40.724 (6)	<0.001
管理栄養士免許	191 (50.4)	24 (92.3)	138 (43.5)	29 (80.6)		
栄養士免許	10 (2.6)	0 (0.0)	8 (2.5)	2 (5.6)		
その他の免許	22 (5.8)	0 (0.0)	21 (6.6)	1 (2.8)		
免許は条件でない	156 (41.2)	2 (7.7)	150 (47.3)	4 (11.1)		
	379 (100.0)	26 (100.0)	317 (100.0)	36 (100.0)		

* n (%), χ^2 検定

表2 大学院生3群の就職先（職場）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	合計
平成16年度	3	10	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0	10	0	1	0	0	0	28
以前卒業生	10.7%	35.7%	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	35.7%	0.0%	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
平成17年度	32	66	14	5	1	4	0	110	21	10	3	1	29	0	7	10	2	8	323
以降卒業生	9.9%	20.4%	4.3%	1.5%	0.3%	1.2%	0.0%	34.1%	6.5%	3.1%	0.9%	0.3%	9.0%	0.0%	2.2%	3.1%	0.6%	2.5%	100.0%
管理栄養士養成	4	16	3	0	1	0	1	3	1	0	0	0	4	2	1	1	0	0	37
施設卒業でない	10.8%	43.2%	8.1%	0.0%	2.7%	0.0%	2.7%	8.1%	2.7%	0.0%	0.0%	0.0%	10.8%	5.4%	2.7%	2.7%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	39	92	18	5	2	4	1	116	22	10	3	1	43	2	9	11	2	8	388
	10.1%	23.7%	4.6%	1.3%	0.5%	1.0%	0.3%	29.9%	5.7%	2.6%	0.8%	0.3%	11.1%	0.5%	2.3%	2.8%	0.5%	2.1%	100.0%

- 1 行政（保健所・保健センターなど）
- 2 病院（病院・医院・老健など）、健診センター
- 3 学校（幼稚園・学校・給食センターなど）
- 4 企業または事業所（従業員の健康管理など）
- 5 給食受託企業
- 6 高齢者福祉施設（老人ホーム・デイサービスセンターなど）
- 7 児童福祉施設（保育所など）
- 8 企業（栄養や食品に関連がある仕事）
- 9 企業（製薬会社・薬局など）
- 10 企業（上記以外）
- 11 起業
- 12 自営
- 13 研究教育（管理栄養士・栄養士養成施設）
- 14 研究教育（管理栄養士・栄養士養成施設以外）
- 15 研究機関
- 16 配属先未定（公務員）
- 17 配属先未定（公務員以外）
- 18 その他

表3 大学院生3群間のコンピテンシー項目点数比較 (基本 (A)、共通 (B1)、共通 (B2)) *

	平成16年度 以前卒業生 (n=35)	平成17年度 以降卒業生 (n=372)	管理栄養士養成 施設卒業生でない (n=49)	合計 (n=456)	p値
A1 管理栄養士という職業に就くこと (就いていること) を誇りに思う	4.29±0.71	3.52±0.94	3.88±0.83	3.61±0.94	<0.001
A2 自分は、管理栄養士という職業に向いている	3.60±0.74	2.85±0.90	3.37±0.95	2.96±0.92	<0.001
A3 食を通して人々の健康と幸せに寄与したい	4.57±0.56	4.46±0.75	4.67±0.55	4.49±0.72	0.140
A4 管理栄養士としての専門的な知識と技術を向上させたい	4.77±0.43	4.26±0.86	4.78±0.42	4.35±0.82	<0.001
	平成16年度 以前卒業生 (n=35)	平成17年度 以降卒業生 (n=371)	管理栄養士 養成施設卒業生 でない (n=49)	合計 (n=455)	p値
B1-1 コミュニケーションによって、良好な人間関係やネットワークを築く	4.11±0.58	3.67±0.83	3.82±0.99	3.72±0.84	0.003
B1-2 自分に与えられた役割を認識し、他の職種と相互理解しながら協働する	4.20±0.58	3.68±0.74	3.92±0.64	3.75±0.74	<0.001
B1-3 患者・クライアント・住民への倫理的配慮 (人権の尊重、インフォームドコンセント、個人情報保護) を行う	4.23±0.55	3.73±0.86	4.10±0.71	3.81±0.84	<0.001
B1-4 健康・栄養に関する統計情報を収集し、現状を把握する	3.80±0.72	3.46±0.92	3.51±0.77	3.49±0.90	0.133
B1-5 関連分野の論文・報告書などからエビデンスに基づく情報を入手し、活用する	3.69±0.58	3.78±0.83	3.73±0.60	3.76±0.79	0.440
B1-6 社会における医療・栄養問題や食糧・環境問題に関する情報を集める	3.77±0.55	3.66±0.83	3.86±0.54	3.69±0.78	0.303
B1-7 個人や地域の栄養課題の解決のために、調査研究を計画・実施する	3.54±0.70	3.07±0.90	3.22±0.87	3.12±0.89	0.004
B1-8 調査研究により得られたデータについて、適切な集計・統計方法を選択し、解析する	3.11±0.72	3.06±0.94	2.98±0.92	3.06±0.92	0.740
B2-1 人体のエネルギーバランスや各栄養素の働きや代謝を理解し、説明を行う	3.77±0.69	3.59±0.91	3.65±0.80	3.61±0.88	0.653
B2-2 食品成分・特性について理解し、献立作成や調理を行う	3.97±0.66	3.11±1.00	3.80±0.71	3.25±0.99	<0.001
B2-3 対象者のライフステージ・ライフスタイル・嗜好・摂食機能等に応じた献立を作成する	4.09±0.56	3.05±0.96	3.90±0.80	3.22±0.99	<0.001
B2-4 食中毒予防など、適切な衛生管理を行う	4.17±0.62	3.65±0.85	4.20±0.50	3.75±0.83	<0.001
B2-5 食品の規格基準、安全に関する法規や制度を理解し、健康被害を防止するための説明を行う	3.60±0.74	3.04±0.90	3.35±0.95	3.12±0.91	<0.001
B2-6 保健・医療・福祉・健康づくりに関する法規や制度の現状を把握する	3.69±0.76	3.11±0.90	3.45±0.87	3.19±0.90	<0.001
B2-7 対象者 (対象集団) のエネルギーや栄養素の摂取の過不足を防ぐため、食事摂取基準を活用する	4.06±0.68	3.58±0.84	3.73±0.81	3.63±0.83	0.002
B2-8 食品成分表の特性を理解し、献立作成や栄養教育に活用する	4.11±0.63	3.48±0.88	3.86±0.74	3.57±0.87	<0.001
B2-9 対象者の行動変容を促すために、行動科学の理論やモデルを活用する	3.29±0.67	3.13±0.89	3.43±0.98	3.18±0.89	0.061
B2-10 対象者の状況を受容し、行動変容を促すために、カウンセリングのスキルを活用する	3.46±0.74	3.01±0.90	3.51±0.96	3.10±0.91	<0.001

*平均値±標準偏差、Kruskal-Wallis の検定

表3 大学院生3群間のコンピテンシー項目点数比較（共通（B3）、職域別（C））*

	平成16年度 以前卒業生 (n=35)	平成17年度 以降卒業生 (n=371)	管理栄養士養成 施設卒業生でない (n=49)	合計 (n=455)	p値
B3-1 目的や対象者に応じた食事調査法を選択・実施し、アセスメントに用いる	3.83±0.62	3.18±0.86	3.63±0.97	3.27±0.88	<0.001
B3-2 対象者・喫食者の食に関する知識、態度、行動をアセスメントする	3.80±0.68	3.33±0.85	3.80±0.93	3.42±0.87	<0.001
B3-3 対象者の身体状況や目的に応じたアセスメント方法を選択し、実施する	3.80±0.68	3.17±0.86	3.65±0.99	3.27±0.89	<0.001
B3-4 血液及び尿中の代表的な生化学成分値を判定し、アセスメントに用いる	3.83±0.86	3.48±0.95	3.69±1.02	3.53±0.95	0.045
B3-5 問診、カルテ、看護記録やバイタルサインなどの情報をアセスメントに活用する	3.66±0.97	3.21±0.93	3.67±1.05	3.30±0.96	<0.001
B3-6 アセスメントの結果から食生活の改善すべき課題を抽出する	3.97±0.66	3.54±0.80	4.06±0.75	3.63±0.80	<0.001
B3-7 課題の中から優先順位を決定し、食生活改善のための目標を設定する	4.11±0.63	3.49±0.77	3.98±0.59	3.59±0.77	<0.001
B3-8 食生活改善のための目標の達成に向けた計画を立てる	4.00±0.64	3.46±0.81	3.90±0.71	3.55±0.81	<0.001
B3-9 対象者のライフステージやライフスタイルに応じた栄養教育を実施する	3.94±0.68	3.26±0.81	3.90±0.85	3.38±0.84	<0.001
B3-10 計画実施中や実施後の経過をモニタリングし、評価を行う	3.94±0.64	3.28±0.80	3.59±0.91	3.36±0.82	<0.001
B3-11 評価に基づき、必要な計画の見直しと修正を行う	3.88±0.64	3.32±0.80	3.52±0.99	3.38±0.83	<0.001
C-1 疫学的な考え方に基づき、地域のアセスメントをする	3.00±0.73	2.76±0.85	2.94±0.83	2.80±0.84	0.059
C-2 地域の栄養課題を解決するのに必要な社会資源を把握する	3.20±0.76	2.86±0.85	3.04±0.87	2.90±0.85	0.031
C-3 地域の栄養課題を解決するために、ヘルスプロモーション、食環境整備の観点を含めて改善計画を立てる	3.17±0.89	2.76±0.86	3.14±0.91	2.84±0.88	0.001
C-4 医療における専門職種役割を理解し、管理栄養士の役割について説明を行う	3.74±0.82	3.36±0.91	3.71±0.96	3.43±0.92	0.003
C-5 対象者の病状や栄養状態に応じた献立作成や食事形態の提案を行う	3.86±0.85	3.13±0.90	3.82±0.86	3.26±0.93	<0.001
C-6 対象者の病状や栄養状態に応じた栄養指導を行う	3.83±0.89	3.15±0.93	3.88±0.81	3.28±0.95	<0.001
C-7 多数の人々への食事提供（発注、購買、検収、保管、大量調理、衛生管理等）を行う	3.89±0.72	2.87±0.96	3.71±0.91	3.04±1.00	<0.001

*平均値±標準偏差、Kruskal-Wallisの検定

分担研究報告書

平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）
「保健・医療の栄養管理サービスの評価に基づく専門的人材育成システム構築に関する研究」

専門的実践能力（コンピテンシー）を指標とした 管理栄養士初任者の到達度把握

研究分担者 永井 成美（兵庫県立大学環境人間学部 准教授）
赤松 利恵（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 准教授）
伊達 ちぐさ（兵庫県立大学環境人間学部 教授）
研究協力者 長幡 友実（修文大学健康栄養学部 講師）

研究要旨

本研究では、2002（平成 14）年に開始された新カリキュラムによる管理栄養士養成教育の成果の検証と今後の教育システム構築の基礎資料とすることを目的として、管理栄養士初任者の専門的実践能力（コンピテンシー）到達度把握のための調査を行った。管理栄養士初任者で到達が必要なコンピテンシー項目は、開発済みの「管理栄養士養成課程卒業時点に必要とされる 40 項目」に、専門家パネルにより検討された 18 項目を追加した 58 項目とし、属性に関する質問を加えて調査票を作成した。調査対象は、日本栄養士会員のうち「1980 年 4 月 1 日以降生まれ」、「管理栄養士」の 2 条件を満たす 8,220 名の会員を抽出し、2011（平成 23）年 9 月～2012（平成 24）年 1 月までに質問紙を郵送し、3,055 名より有効なマークシート回答を得た（有効回収率 37.2%）。回答者の職域は、病院（51.9%）が最も多く、福祉（21.7%）、行政（8.8%）、学校（5.5%）、地域活動（4.6%）、集団健康管理（3.4%）、研究教育（3.1%）の順であった。管理栄養士・栄養士としての総勤務年数は、5-6 年（30.4%）が最も多く、3-4 年（25.5%）、7-8 年（21.9%）、1-2 年（14.4%）、9 年以上（7.1%）であった。基本コンピテンシーに関する 4 項目では、意欲および態度を問う項目で 90%以上が「かなりそう思う」または「そう思う」と答えたが、自己確信（管理栄養士に向いている）を問う項目では 37%のみであった。共通および職域別コンピテンシーに関する 54 項目のうち 30 項目で、50%以上が現在の業務上の役割や機会と関係なく「十分にできる」または「できる」と答えており、同回答が 25%未満の項目は 7 項目（調査研究 2 項目、公衆栄養の職域別コンピテンシー 5 項目）であった。対象を、新しいカリキュラムによる教育を受けた者（新カリ卒業生 1,702 名）、旧カリキュラムによる教育を受けた者（旧カリ卒業生 787 名）、管理栄養士養成施設卒業生でない者（530 名）の 3 群でコンピテンシー得点を比較すると、58 項目中 39 項目で旧カリ卒業生の得点が有意に高かった。新カリ卒業生では、基本コンピテンシー 2 項目（意欲、態度）、共通コンピテンシーの「行動科学の理論やモデルを活用する」、職域別コンピテンシー（臨床栄養）の「SOAP などに基づく記録を行い、チーム内で情報を共有する」の 4 項目で有意に得点が高かった。以上の結果には、調査対象の職域や経験年数などが関連していると考えられるが、新カリ卒業生では経験年数が短いにも関わらず、得点の高いコンピテンシー項目が見受けられた。

A. 研究目的

本研究では、平成14年に開始された新しいカリキュラムによる管理栄養士養成教育の成果を検証するとともに、管理栄養士が社会の要求に応えられる栄養管理の専門職として養成されるための教育システム構築のための基礎資料を得ることを目的として、管理栄養士初任者の専門的実践能力(コンピテンシー)到達度を把握するための基礎調査を行った。

B. 研究方法

1. 調査対象者と調査手順

調査対象の「管理栄養士初任者」は、1980年4月1日以降出生の管理栄養士とした。日本栄養士会の協力を得てデータベース(個人票)から生年月日と管理栄養士資格の2条件を満たす8,220名を抽出し、2011(平成23)年9月～2021(平成24)年1月に質問紙調査を行った。調査対象の登録住所に質問紙とマークシートを郵送し、回答したマークシートを返信用封筒で返却するよう依頼した。

2. 調査項目

1) コンピテンシー測定項目(付表1)

管理栄養士初任者で到達が必要なコンピテンシー項目は、昨年の研究班で開発した¹⁾、「管理栄養士養成課程卒業時点で必要とされる40項目」をもとに、専門家パネルによって検討された18項目を追加して58項目とした。これらの項目は、基本コンピテンシー(表中ではAと示す、以下同様)、共通コンピテンシー(B)、職域別コンピテンシー(C)より構成される。基本コンピテンシーは、管理栄養士のコンピテンシーでも中核的な、価値観、自己確信、意欲、態度に関する4項目であり、共通コンピテンシーは、倫理的配慮やコミュニケーション・調査研究に関する12項目(B-1)、栄養・食品スキルに関する10項目(B-2)、栄養マネジメント能力に関する11項目(B-3)であり、職域別コンピテンシーは、公衆栄養に関する5項目(C-1)、臨床栄養に関する8項目(C-2)、給食経営管理に

関する8項目(C-3)であった。

養成施設卒業時点のコンピテンシー測定項目に、初任者に必要なコンピテンシー測定項目として追加された18項目は、それぞれ以下の理由で選定された。まず、社会に貢献する人物像の評価を補強するという観点から、B-1に「困難な課題にもチャレンジする」、「情報発信や社会活動を通して積極的に社会に貢献する」の2項目が追加された。次に、B-1のDo(実施)部分を補強するという観点から「専門的な知識や情報並びに具体的な方法を、対象者や家族に理解してもらえるように説明する」、「施設の理念や方針、並びに根拠法令や制度を理解し、適切な行動をする」の2項目が追加された。さらに、職域別コンピテンシーについて、初任者の業務上の役割や機会とは関係なく求められる専門的実践能力を補強するという観点からC-1(公衆栄養)に「地球環境(生態系)と食べ物、並びに健康の観点から、社会情勢の変化に適応した取組を行う」、「エンパワメントの考え方に基づき、健康づくりに関わる地区組織の育成を行う」の2項目が、C-2(臨床栄養)に「チーム医療に参画し、専門的な立場から栄養補給量と方法を提案し、栄養管理を行う」、「SOAPなどに基づく記録を行い、チーム内で情報を共有する」、「診療ガイドラインを理解し、それを活用して栄養管理を行う」、「自己決定を促すために、対象者や家族に対して栄養管理の方針を説明し同意を得る」、「対象者のADLやQOL、生きがいを踏まえて食生活の提案を行う」の5項目が、C-3(給食経営管理)に「対象者の栄養管理を目的とした、給食の品質管理を行う」、「給食施設の資源(人材、食材、お金、設備、方法)を把握し、効率的に活用する」、「給食経営上の制約の中で、利用者ニーズをくみ上げた栄養管理を行う」、「対象者に対し、給食を活用した栄養教育・情報提供などを行う」、「給食施設におけるリスク(食中毒、誤配、異物混入、事故、災害など)の被害を予測し対応を行う」、「給食業務従事者の能力や業務状況に配慮し、協力体制を作る」、「給食の運営上の課題解決に向けて、積極的に周

囲や関係者に働きかける」の7項目が追加された。

2) 属性等に関する調査項目

属性等に関する項目は21項目であった。基本属性では、管理栄養士養成施設を卒業しているか、卒業年次、性別、年齢、職域（日本栄養士会の職域協議会）、地域（日本栄養士会の所属ブロック）、最終学位、卒業研究を行ったか、大学院に在学中であるかどうかをたずねた。就業状況に関しては、現在の職場、管理栄養士・栄養士としての総勤務年数、現在の仕事の勤務年数、採用条件である免許の種類、雇用形態、管理栄養士配置数、先輩管理栄養士の指導の有無について尋ねた。自己研鑽に関しては、栄養士会生涯学習への参加、健康・医療もしくは食・栄養に関する学会（研究会）への入会・発表・論文投稿の状況について尋ねた。調査項目および属性等に関する調査項目および選択肢は付表1に示したとおりであり、マークシートで回答を依頼した。

3. 倫理的配慮

質問紙の表紙には、調査の目的、任意の調査であること、回答しないことにより不利益を被ることはないこと、個人の能力を調べるものではないこと、および得られた情報は厳正に管理し調査目的以外には使用しないとの説明を明記した。回答は無記名とした。本研究の実施にあたっては、人権や個人情報に配慮した研究計画書を作成し、兵庫県立大学倫理委員会の審査を受け承認を得た。

4. 解析方法

回収したマークシートに二重回答などのミスや汚れがないかを確認し、有効なマークシートのみをスキャナ（ScanSnap S1500, Fujitsu）で読み取り、本調査集計用に発注した集計ソフトを用いてデータをCSV出力した。解析には、IBM SPSS Statistics19 for Windowsを用いた。各コンピテンシー測定項目の平均得点を算出し、得点の高い順に順位付けを行った。また、平成16年度以前管

理栄養士養成施設卒業生、平成17年度以降同施設卒業生、同施設卒業生でない者、の3群での属性の比較には Pearson の χ^2 検定を用い、各コンピテンシー得点の比較には、項目ごとに等分散性の検定を実施した後、Kruskal-Wallis 検定を用いた。得点データは平均値±標準偏差で表し、欠損値は項目ごとに除外した。検定は全て両側検定とし、有意水準は $p < 0.05$ とした。

C. 結果

1. 回答数

質問紙は8,220名に送付し、3,055名から回答用紙が返却された（回収率37.2%）。回収されたマークシートは全て解析に使用できたため、質問紙配布数に対する有効回答率は37.2%、質問紙回収数に対する有効回答率は100%であった。

2. 基本属性

1) 管理栄養士養成教育：平成17年度以降の管理栄養士養成施設卒業生が55.7%（1,702名）、平成16年度以前卒業生が25.8%（787名）、管理栄養士養成施設卒業生でない者が17.3%（530名）、不明1.2%（37名）であった。

2) 性別と年齢：回答者3055名の94.9%（2,899名）が女性であった。年齢は22-23歳が4.3%（131名）、24-25歳が18.2%（555名）、26-27歳が27.6%（443名）、28-29歳が29.9%（915名）、30歳以上が19.6%（598名）、不明が0.4%（13名）であった。

3) 職域および所属ブロック：職域は、病院が51.9%（1,585名）で最も多く、次いで福祉21.7%（663名）、行政8.8%（269名）、学校5.5%（167名）、地域活動4.6%（140名）、集団健康管理3.4%（105名）、研究教育3.1%（96名）、不明1.0%（30名）であった。所属ブロックは、北海道・東北12.9%（394名）、関東・甲信越25.3%（772名）、東海・北陸15.1%（460名）、近畿15.2%（463名）、中国・四国15.0%（457名）、九州15.8%（485名）、不明0.8%（24名）であった。

4) 最終学位、卒業研究と大学院在籍状況：最終学

位は、学士 75.4% (2,302 名)、修士 7.9% (242 名)、博士 0.6% (18 名)、その他 13.0% (396 名)、不明 3.2% (97 名) であった。卒業研究を行ったのは 79.1% (2,417 名)、行わなかったのは 20.3% (620 名) であった。現在大学院に在籍中の者は、修士課程 0.6% (18 名)、博士課程 1.0% (30 名) であった。

3. 就業状況

現在勤務する職場は、行政 9.2% (280 名)、病院 52.1% (1,594 名)、学校 4.9% (151 名)、企業・事業所 0.9% (28 名)、給食受託企業 (給食会社) 3.1% (96 名)、高齢者福祉施設 12.5% (382 名)、児童福祉施設 2.8% (82 名)、障がい者福祉施設 1.7% (52 名)、その他の福祉施設 0.1% (3 名)、企業 (栄養・食品) 1.1% (35 名)、企業 (製薬・薬局) 0.8% (23 名)、企業 (その他) 0.6% (19 名)、起業 0.1% (2 名)、自営 0.1% (3 名)、研究教育 (管理栄養士・栄養士養成施設) 2.9% (88 名)、研究教育 (管理栄養士・栄養士養成施設以外) 0.5% (14 名)、研究機関 0.2% (6 名)、その他 1.2% (36 名)、不明 4.5% (136 名) であった。

管理栄養士・栄養士としての総勤務年数は、1-2 年 14.5% (442 名)、3-4 年 25.5% (779 名)、5-6 年 30.4% (928 名)、7-8 年 21.9% (669 名)、9 年以上 7.1% (217 名)、不明 0.7% (20 名) であった。

現在の仕事での勤務年数は、1-2 年 29.2% (892 名)、3-4 年 31.0% (946 名)、5-6 年 23.4% (714 名)、7-8 年 12.3% (376 名)、9 年以上 2.8% (87 名)、不明 1.3% (40 名) であった。

現在の仕事の採用条件である免許は、管理栄養士免許が 80.7% (2,467 名)、栄養士免許 14.6% (447 名)、その他の免許 0.6% (19 名)、免許は採用条件でない 2.7% (81 名)、不明 1.3% (41 名) であった。

現在の仕事の雇用形態は、常勤が 87.0% (2,659 名)、非常勤が 8.4% (258 名)、非就業が 3.6% (110 名)、不明 0.9% (28 名) であった。現在の職場での管理栄養士配置は、1 人職種 31.3% (956 名)、同一職場内複数配置 55.7% (1,703 名)、複数配置

だが勤務場所では 1 名で仕事 5.2% (159 名)、その他 3.4% (104 名)、不明 4.4% (133 名) であった。職場が同一でない場合も含み、先輩管理栄養士から指導を受けているかどうかについては、受けている 60.9% (1,860 名)、受けていない 34.6% (1,056 名)、不明 4.6% (139 名) であった。

4. 自己研鑽

栄養士会生涯学習への過去 1 年間の参加回数は、0 回 41.9% (1,280 名)、1 回 14.6% (447 名)、2 回 0.6% (19 名)、3 回 2.7% (81 名)、4 回以上 0.1% (4 名)、不明 1.2% (37 名) であった。健康・医療もしくは食・栄養に関する学会への入会者は、33.9% (1,035 名) であり、同様の学会の学術総会や地方会への過去 1 年間の参加回数は、0 回が 53.9% (1,646 名)、1 回 18.4% (563 名)、2 回 10.5% (322 名)、3 回 5.5% (168 名)、4 回以上 7.1% (217 名)、不明 4.5% (139 名) であった。同様の学会の学術総会や地方会における発表経験に関しては、第一著者としての発表 14.0% (429 名)、第一著者ではないが共著者としての発表 6.6% (203 名) であった。同様の学会の学会誌への論文投稿経験に関しては、第一著者としての投稿 2.8% (87 名)、第一著者ではないが共著者としての投稿 4.8% (148 名) であった。

5. 初任者の自己評価によるコンピテンシー到達度評価 (表 1、付表 1)

表 1 は、基本コンピテンシー (4 項目) は「かなりそう思う」から「全くそう思わない」を順に 5 点から 1 点で点数化し、平均得点が高いものから順に並べたものである。1 位の「食を通して人々の健康と幸せに寄与したい (意欲)」(4.360±0.704 点 [平均値±標準偏差])、2 位の「専門的な知識と技術向上のための自己研鑽に努めたい (態度)」(4.331±0.709 点) の得点が高かった。3 位の「管理栄養士としての職業に就いていることを誇りに思う (価値観)」(3.823±0.829 点) に比べて、4 位の「自分は管理栄養士という職業に向いている

（自己確信）」(3.220±0.841点)の得点は低めであった。

共通コンピテンシーおよび職域別コンピテンシー(54項目)は、「あなたの業務上の役割や機会とは関係なく、現時点でどの程度できますか」と尋ね、「十分にできる」から「全くできない」を順に5点から1点で点数化し、平均得点が高いものから順に並べた(表1)。その結果、1位から44位までは平均得点が3点以上であった。1位は「食中毒予防など、適切な衛生管理を行う(B-2)」で4.000±0.713点、2位は「患者・クライアント・住民への倫理的配慮を行う(B-1)」で3.950±0.734点、3位は「自分に与えられた役割を認識し、他の職種と相互理解しながら協働する(B-1)」で3.810±0.664点であった。また、4位と5位はアセスメントに関する項目、6位と7位はコミュニケーションや施設の理念や方針等にあった適切な行動に関する項目であった。

一方、平均点数が3点未満であった10項目のうち最下の54-50位は公衆栄養の職域別コンピテンシー(C-1)であり、いずれも平均点が2.5点に満たなかった。49-48位は調査研究に関する項目(B-1)、47-46位は食品の規格基準・安全に関する法規や制度、行動科学の理論やモデルの活用(B-2)、45位は臨床栄養の職域別コンピテンシーで診療ガイドラインの理解と活用(C-2)であった。

付表1には、回答の割合別に結果を示した50%以上の初任者が現在の業務上の役割や機会と関係なく「十分にできる」または「できる」と答えたのは30項目であり、「十分にできる」または「できる」と答えた者が25%未満の項目は7項目(調査研究2項目、公衆栄養の職域別コンピテンシー5項目)であった。

6. 3群の比較

表2~4は、旧カリ卒業生、新カリ卒業生、卒業生でない者、の3群の属性を比較したものである。差が認められた項目は、年齢($P < 0.001$)、最終学位($P = 0.001$)、卒業研究実施有無($P < 0.001$)、

現在の職場($P = 0.003$)、管理栄養士・栄養士としての総勤務年数($P < 0.001$)、現在の仕事での勤務年数($P < 0.001$)、採用条件となった免許の種類($P < 0.001$)、雇用形態($P = 0.020$)、管理栄養士配置(1人・複数)($P = 0.028$)、先輩管理栄養士の指導有無($P = 0.001$)、学会・研究会入会($P < 0.001$)、学会・研究会参加($P < 0.001$)、学会・研究会発表($P < 0.001$)、学会誌への論文投稿($P = 0.017$)であった。旧カリ卒業生、卒業生でない者は、年齢が高く、勤務年数も長かった。学位や卒業研究実施、採用条件となった免許の種類は、管理栄養士養成施設卒業生かどうかで異なっていた。学会・研究会関連のアクティビティは、概ね旧カリ卒業生、新カリ卒業生、卒業生でない者の順に高かった。

表5は、初任者を①平成16年度以前管理栄養士養成施設卒業生($n=787$ 、以下、旧カリ卒業生と記す)、②平成17年度以降同施設卒業生($n=1,702$ 、以下、新カリ卒業生と記す)、③同施設卒業生でない者($n=530$)の3群で58項目のコンピテンシー得点を比較したものである。58項目中39項目で旧カリ卒業生が有意に高得点を示した。一方、新カリ卒業生が有意に高得点を示した項目は、基本コンピテンシー2項目(意欲、態度)、共通コンピテンシーの「行動科学の理論やモデルを活用する」、職域別コンピテンシー(臨床栄養)の「SOAPなどに基づく記録を行い、チーム内で情報を共有する」の4項目であった。

D. 考察

1. 初任者の基本コンピテンシー

本研究の対象は、1980年4月1日生まれ以降の管理栄養士であるため、年齢は22歳~31歳まで10歳の幅があり、また栄養士・管理栄養士としての総勤務年数にも1年(目)~10年(目)の幅がある。従って“初任者”と言っても、新人から10年のキャリアを有するものまで幅広い対象を含むことに留意して結果を解釈する必要がある。また、調査対象の職域は約5割が「病院」であり、病院

の管理栄養士の特性が全体に色濃く反映されていると考えられる。

以上より、今後は「職域別」「経験年数別」に結果を解析し、各職域の管理栄養士が、経験を積むにつれ、どのようなコンピテンシーが高まっていくのかについて検討を行う必要がある。

2. 初任者の自己評価によるコンピテンシー

初任者（全体）の自己評価によるコンピテンシーを得点順位でみると、基本コンピテンシーでは、「食を通して人々の健康と幸せに寄与したい」、「専門的な知識と技術向上のための自己研鑽に努めたい」の得点が高く、高い意欲と態度を有していることが示された。「管理栄養士としての職業に就いていることを誇りに思う」に比べて、「自分は管理栄養士という職業に向いている」の得点が低く、管理栄養士という資格や仕事に一定の価値観を認めながら、自分がその仕事に向いているという自己確信のレベルはそれよりもやや低いと考えられた。

共通コンピテンシー、職域別コンピテンシーでは、食中毒予防や倫理的配慮という人命や尊厳に関わる極めて重要なコンピテンシーの得点が高かった。これは専門職として最優先で身につける必要があるからであると考えられる。続く、役割認識と他職種との協働、アセスメントからの課題抽出、抽出課題の優先順序づけ、施設の理念等に基づく適切な行動、コミュニケーション、多数の人々への食事提供、目標達成に向けた計画立案、食品成分表の活用までが上位の10項目であった。

一方で、下位の10項目は、54-50位は公栄養の職域別コンピテンシー（C-1）、49-48位は調査研究に関する項目（B-1）、47-46位は食品の規格基準・安全に関する法規や制度、行動科学の理論やモデルの活用（B-2）、45位は臨床栄養の職域別コンピテンシーで診療ガイドラインの理解と活用（C-2）であった。以上の項目は、平均3点未満、特にC-1の項目は平均2.5点未満であり、付表1の分布からも「十分にできる」「できる」という回

答が少ない項目であった。これらの項目が下位であった理由として、回答した初任者の約5割が病院勤務であるため、普段の仕事に馴染みの薄いと思われる、公衆栄養、調査研究などのコンピテンシー得点が低くなったことが考えられる。また、「行動科学の理論やモデルの活用」の得点が低かった理由として、新しい管理栄養士教育を受けていない初任者の得点が低かったことや、教育を受けたものの実務での活用ができていないこと、の2点が考えられる。「法規・制度」や「診療ガイドライン」については、卒後の継続した学習による知識の獲得が十分でない場合に得点が低くなることが考えられる。付表1の回答分布からは、「法規・制度」、「診療ガイドライン」の項目は、「できない」または「全くできない」と答えた初任者が30%以上いることが明らかとなっている。基本コンピテンシーでは90%以上が「自己研鑽に努めたい」と回答しているにも関わらず、実際の知識の獲得にまでは至っていない実情が伺える。

3. 新しい養成教育の成果に関する考察

初任者を、旧カリ卒業生、新カリ卒業生、管理栄養士卒業生でない者の3群でコンピテンシー得点を比較すると、約3分の2の項目で旧カリ群が有意に高得点を示した。旧カリ卒業生は新カリ卒業生よりも勤務年数が有意に長く、実務経験の長さが結果に影響したことが考えられ、単純な比較により新しい管理栄養士教育の成果を評価することはできないと考えられる。

しかしながら、実務経験の短い新カリ卒業生であっても、基本コンピテンシー2項目（意欲、態度）、共通コンピテンシー1項目「行動科学の理論やモデルを活用する」、職域別コンピテンシー（臨床栄養）1項目「SOAPなどに基づく記録を行い、チーム内で情報を共有する」については3群間で有意に得点が高かった。以上の項目には、新しいカリキュラムに特徴的な内容を含んでおり、その得点が高かったことは興味深い結果である。また態度については、経験年数が少ないがゆえに「自己

研鑽が必要」と考えている可能性は排除できないが、「食を通して人々の健康と幸せに寄与したい」という意欲とともに、4年間の新しいカリキュラムによる教育の過程で醸成されたことも考えられる。

4. 新規性と限界

本研究の新規性は、コンピテンシーの概念を導入して、初任者の専門的実践能力の評価を試みた点である。意欲や態度、食中毒や個人情報に関するコンピテンシーでは高い得点が示された一方で、公衆栄養（疫学）や調査研究に関する得点が低いことが明らかとなった。本研究の限界は、初任者の職域や経験年数などの選択バイヤスを排除できていないことであり、今後は職域や経験年数別の到達度評価等、さらなる解析が必要である。

E. 結論

本研究では、管理栄養士初任者に到達が必要なコンピテンシー項目として、「管理栄養士養成課程卒業時点で必要とされる40項目」に、専門家パネルにより検討された18項目を追加した58の測定項目を用いて、管理栄養士初任者のコンピテンシー到達度を自己評価により調査した。全体の結果では、意欲や態度、食中毒や個人情報に関するコンピテンシーでは高い得点が示された一方で、公衆栄養（疫学）や調査研究に関する得点が低いことが明らかとなった。さらに、新カリキュラムでの教育の評価のために、管理栄養士養成施設卒業年度により、旧カリ卒業生、新カリ卒業生、同施設の卒業生でない者、の3群で各コンピテンシー項目の得点比較を行った。58項目中39項目で旧カリ卒業生が有意に高得点を示した。一方、新カリ卒業生が有意に高得点を示した項目は、基本コンピテンシー2項目（意欲、態度）、共通コンピテンシーの「行動科学の理論やモデルを活用する」、職域別コンピテンシー（臨床栄養）の「SOAPなどに基づく記録を行い、チーム内で情報を共有する」の4項目であった。コンピテンシーには、本調査

対象の職域や経験年数などが関連していると考えられるが、新カリキュラムによる卒業生では経験年数が短いにも関わらず、得点の高いコンピテンシー項目があることが明らかとなった。

F. 参考文献

- 1) 永井成美, 赤松利恵, 長幡友実: コンピテンシー開発の考え方と枠組み (国内外の文献レビュー), 厚生労働科学研究費補助金循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業「保健・医療サービスの評価に基づく専門的人材育成のシステム構築に関する研究」平成22年度総括・分担研究報告書 (伊達ちぐさ), pp. 55-123 (2010), 兵庫
- 2) Ward, B., Rogers, D., Mueller, C., Touger-Decker, R., Sauer, K.L.: Entry-level dietetics practice today: results from the 2010 commission on dietetic registration entry-level dietetics practice audit. *J. Am. Diet. Assoc.*, 111, 914-941 (2011)

G. 研究発表

1. 論文発表
 - 1) 永井成美, 赤松利恵, 長幡友実, 吉池信男, 石田裕美, 小松龍史, 中坊幸弘, 奈良信雄, 伊達ちぐさ. 卒前教育レベルの管理栄養士のコンピテンシー測定項目の開発. 栄養学雑誌 70, 49-58 (2012)
 - 2) 赤松利恵, 永井成美, 長幡友実, 吉池信男, 石田裕美, 小松龍史, 中坊幸弘, 奈良信雄, 伊達ちぐさ. 管理栄養士に関する基本コンピテンシーの高い学生の特徴—卒業年次の学生の自己評価による調査結果の解析—. 栄養学雑誌, 印刷中
 - 3) 長幡友実, 吉池信男, 赤松利恵, 永井成美, 石田裕美, 小松龍史, 中坊幸弘, 奈良信雄, 伊達ちぐさ. 管理栄養士養成課程学生の卒業時点におけるコンピテンシー到達度. 栄養学雑誌, 印刷中

2. 学会発表

- 1) 赤松利恵, 永井成美, 長幡友実, 中坊幸弘, 吉池信男, 石田裕美, 小松龍史, 伊達ちぐさ. 管理栄養士に関する基本コンピテンシーの高い学生の特徴—卒業年次の学生の自己評価による調査結果の解析—. 第 58 回日本栄養改善学会学術総会, 2011 年 9 月 8 日～10 日, 広島
- 2) 永井成美, 赤松利恵, 長幡友実, 中坊幸弘, 吉池信男, 石田裕美, 小松龍史, 伊達ちぐさ. 管理栄養士養成教育の到達度把握の試み—コンピテンシーの概念を導入して—. 第 58 回日本栄養改善学会学術総会, 2011 年 9 月 8 日～10 日, 広島
- 3) 長幡友実, 赤松利恵, 永井成美, 中坊幸弘, 吉池信男, 石田裕美, 小松龍史, 伊達ちぐさ. 管理栄養士養成教育の到達度に関する検討—卒業年次の学生および教員に対する調査結果から—. 第 58 回日本栄養改善学会学術総会, 2011 年 9 月 8 日～10 日, 広島
- 4) 赤松利恵, 吉池信男, 石田裕美, 伊達ちぐさ. 管理栄養士・栄養士の資格を活かした就職内定者のコンピテンシーに関する研究. 第 70 回日本公衆衛生学会総会, 2011 年 10 月 19 日～21 日, 秋田

H. 知的所有権の取得状況

なし

I. 利益相反

なし

表1 初任者の自己評価によるコンピテンシー項目の得点順位

順位	No	区分	項目	回答数	点数*
1	3	A-3	食を通して人々の健康と幸せに寄与したい	3055	4.360±0.704
2	4	A-4	管理栄養士としての専門的な知識と技術向上のため自己研鑽に努めたい	3054	4.331±0.709
3	1	A-1	管理栄養士という職業に就いていることを誇りに思う	3053	3.823±0.829
4	2	A-2	自分は、管理栄養士という職業に向いている	3055	3.224±0.841
1	20	B-2	食中毒予防など、適切な衛生管理を行う	3053	3.997±0.713
2	9	B-1	患者・クライアント・住民への倫理的配慮(人権の尊重、インフォームドコンセント、個人情報保護)を行う	3054	3.949±0.734
3	6	B-1	自分に与えられた役割を認識し、他の職種と相互理解しながら協働する	3055	3.812±0.664
4	32	B-3	アセスメントの結果から食生活の改善すべき課題を抽出する	3053	3.801±0.754
5	33	B-3	課題の中から優先順位を決定し、食生活改善のための目標を設定する	3053	3.759±0.751
6	11	B-1	施設の理念や方針、並びに根拠法令や制度を理解し、適切な行動をする	3055	3.750±0.692
7	5	B-1	コミュニケーションによって、良好な人間関係やネットワークを築く	3039	3.730±0.733
8	51	C-3	多数の人々への食事提供(発注、購買、検収、保管、大量調理、衛生管理等)を行う	3049	3.703±1.024
9	34	B-3	食生活改善のための目標の達成に向けた計画を立てる	3053	3.701±0.760
10	24	B-2	食品成分表の特性を理解し、献立作成や栄養教育に活用する	3054	3.687±0.783
11	52	C-3	対象者の栄養管理を目的とした、給食の品質管理を行う	3050	3.655±0.940
12	30	B-3	血液及び尿中の代表的な生化学成分値を判定し、アセスメントに用いる	3053	3.653±0.874
13	23	B-2	対象者(対象集団)のエネルギーや栄養素の摂取の過不足を防ぐため、食事摂取基準を活用する	3054	3.651±0.807
14	55	C-3	対象者に対し、給食を活用した栄養教育・情報提供などを行う	3050	3.647±0.849
15	44	C-2	対象者の病状や栄養状態に応じた献立作成や食事形態の提案を行う	3053	3.634±0.859
16	56	C-3	給食施設におけるリスク(食中毒、誤配、異物混入、事故、災害など)の被害を予測し対応を行う	3047	3.631±0.859
17	50	C-2	対象者のADLやQOL、生きがいを踏まえて食生活の提案を行う	3053	3.627±0.826
18	19	B-2	対象者のライフステージ・ライフスタイル・嗜好・摂食機能等に応じた献立を作成する	3054	3.627±0.821
19	31	B-3	問診、カルテ、看護記録やバイタルサインなどの情報をアセスメントに活用する	3053	3.612±0.951
20	18	B-2	食品成分・特性について理解し、献立作成や調理を行う	3054	3.612±0.808
21	7	B-1	困難な課題にも、チャレンジする	3053	3.601±0.749
22	28	B-3	対象者・喫食者の食に関する知識、態度、行動をアセスメントする	3052	3.599±0.796
23	45	C-2	対象者の病状や栄養状態に応じた栄養指導を行う	3054	3.576±0.888
24	35	B-3	対象者のライフステージやライフスタイルに応じた栄養教育を実施する	3050	3.561±0.816
25	36	B-3	計画実施中や実施後の経過をモニタリングし、評価を行う	3050	3.558±0.814
26	37	B-3	評価に基づき、必要な計画の見直しと修正を行う	3051	3.537±0.809
27	29	B-3	対象者の身体状況や目的に応じたアセスメント方法を選択し、実施する	3051	3.502±0.832
28	10	B-1	専門的な知識や情報並びに具体的な方法を、対象者や家族に理解してもらえるように説明する	3052	3.499±0.777
29	58	C-3	給食の運営上の課題解決に向けて、積極的に周囲や関係者に働きかける	3048	3.455±0.908
30	57	C-3	給食業務従事者の能力や業務状況に配慮し、協力体制を作る	3048	3.447±0.925
31	54	C-3	給食経営上の制約の中で、利用者ニーズをくみ上げた栄養管理を行う	3050	3.352±0.893
32	53	C-3	給食施設の資源(人材、食材、お金、設備、方法)を把握し、効率的に活用する	3052	3.351±0.992
33	17	B-2	人体のエネルギーバランスや各栄養素の働きや代謝を理解して説明を行う	3055	3.321±0.823
34	27	B-3	目的や対象者に応じた食事調査法を選択・実施し、アセスメントに用いる	3051	3.318±0.884
35	43	C-2	医療における専門職種の役割を理解し、管理栄養士の役割について説明を行う	3053	3.306±0.929
36	12	B-1	健康・栄養に関する統計情報を収集し、現状を把握する	3054	3.280±0.850
37	49	C-2	自己決定を促すために、対象者や家族に対して栄養管理の方針を説明し同意を得る	3053	3.262±0.936
38	14	B-1	社会における医療・栄養問題や食糧・環境問題に関する情報を集める	3050	3.246±0.851
39	26	B-2	対象者の状況を受容し、行動変容を促すために、カウンセリングのスキルを活用する	3054	3.189±0.919
40	47	C-2	SOAPなどに基づく記録を行い、チーム内で情報を共有する	3052	3.146±1.073
41	46	C-2	チーム医療に参画し、専門的な立場から栄養補給量と方法を提案し、栄養管理を行う	3053	3.114±1.044
42	22	B-2	保健・医療・福祉・健康づくりに関する法規や制度の現状を把握する	3053	3.105±0.824
43	13	B-1	関連分野の論文・報告書などからエビデンスに基づく情報を入手し、活用する	3053	3.089±0.932
44	8	B-1	情報発信や社会活動を通して積極的に社会に貢献する	3055	3.018±0.879
45	48	C-2	診療ガイドラインを理解し、それを活用して栄養管理を行う	3050	2.994±1.011
46	25	B-2	対象者の行動変容を促すために、行動科学の理論やモデルを活用する	3050	2.970±0.920
47	21	B-2	食品の規格基準、安全に関する法規や制度を理解し、健康被害を防止するための説明を行う	3053	2.929±0.874
48	16	B-1	調査研究により得られたデータについて、適切な集計・統計方法を選択し、解析する	3050	2.602±0.985
49	15	B-1	個人や地域の栄養課題の解決のために、調査研究を計画・実施する	3052	2.568±0.971
50	39	C-1	地域の栄養課題を解決するのに必要な社会資源を把握する	3051	2.479±0.896
51	38	C-1	疫学的な考え方に基づき、地域のアセスメントをする	3051	2.453±0.865
52	41	C-1	地球環境(生態系)と食べ物、並びに健康の観点から、社会情勢の変化に適応した取組を行う	3053	2.450±0.886
53	40	C-1	地域の栄養課題を解決するために、ヘルスプロモーション、食環境整備の観点を含めて改善計画を立てる	3052	2.334±0.866
54	42	C-1	エンパワメントの考え方に基づき、健康づくりに関わる地区組織の育成を行う	3053	2.259±0.925

*平均値±標準偏差。 順位決定のため、小数第三位までの得点を示した。

表2 基本属性

項目	全体		平成16年度以前卒業		平成17年度以降卒業		卒業生でない		P値*
	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)		
管理栄養士養成施設									
卒業（平成16年度以前）	787	(25.8)							
卒業（平成17年度以降）	1,702	(55.7)							
卒業せず	530	(17.3)							
不明・マークミス	36	(1.2)							
	3,055	(100.0)							
性別									
女性	2,869	(95.5)	746	(95.4)	1,627	(96.0)	496	(93.9)	0.373
男性	135	(4.5)	36	(4.6)	67	(4.0)	32	(6.1)	
	3,004	(100.0)	782	(100.0)	1,694	(100.0)	528	(100.0)	
年齢									
22-23歳	129	(4.3)	0	(0.0)	127	(7.5)	2	(0.4)	<0.001
24-25歳	551	(18.3)	0	(0.0)	523	(30.8)	28	(5.3)	
26-27歳	831	(27.6)	25	(3.2)	725	(42.6)	81	(15.3)	
28-29歳	905	(30.1)	416	(53.4)	303	(17.8)	186	(35.2)	
30歳以上	591	(19.7)	338	(43.4)	22	(1.3)	231	(43.8)	
	3,007	(100.0)	779	(100.0)	1,700	(100.0)	528	(100.0)	
所属職種協議会									
病院	1,567	(52.4)	414	(53.5)	892	(52.9)	261	(49.4)	-
福祉	653	(21.8)	158	(20.4)	359	(21.3)	136	(25.7)	
行政	268	(9.0)	72	(9.3)	161	(9.5)	35	(6.6)	
学校	167	(5.6)	36	(4.7)	105	(6.2)	26	(4.9)	
地域活動	140	(4.7)	35	(4.5)	68	(4.0)	37	(7.0)	
集団健康管理	100	(3.3)	22	(2.8)	64	(3.8)	14	(2.6)	
研究教育	96	(3.2)	37	(4.8)	39	(2.3)	20	(3.8)	
	2,991	(100.0)	774	(100.0)	1,688	(100.0)	529	(100.0)	
所属ブロック									
北海道・東北	389	(13.0)	112	(14.3)	200	(11.9)	77	(14.6)	-
関東・甲信越	756	(25.4)	204	(25.9)	400	(23.8)	152	(28.6)	
東海・北陸	456	(15.2)	105	(13.4)	253	(15.1)	98	(18.5)	
近畿	461	(15.4)	122	(15.5)	280	(16.7)	59	(11.2)	
中国・四国	450	(15.0)	126	(16.1)	256	(15.3)	68	(12.9)	
九州	480	(16.0)	116	(14.8)	289	(17.2)	75	(14.2)	
	2,992	(100.0)	785	(100.0)	1,678	(100.0)	529	(100.0)	
最終学位									
学士	2,280	(77.9)	616	(81.0)	1,426	(85.3)	238	(48.2)	0.001
修士	239	(8.2)	78	(10.2)	126	(7.5)	35	(7.1)	
博士	18	(0.6)	10	(1.3)	3	(0.2)	5	(1.0)	
その他	390	(13.3)	57	(7.5)	117	(7.0)	216	(43.7)	
	2,927	(100.0)	761	(100.0)	1,672	(100.0)	494	(100.0)	
卒業研究									
行った	2,390	(79.6)	670	(85.6)	1,399	(82.5)	321	(61.1)	<0.001
行わなかった	614	(20.4)	113	(14.4)	297	(17.5)	204	(38.9)	
	3,004	(100.0)	783	(100.0)	1,696	(100.0)	525	(100.0)	
大学院就学									
在学中（修士課程）	18	(0.6)	2	(0.3)	13	(0.8)	3	(0.6)	0.175
在学中（博士課程）	30	(1.0)	5	(0.6)	14	(0.8)	11	(2.1)	
在学中でない	2,924	(98.4)	765	(99.1)	1,655	(98.4)	504	(97.3)	
	2,972	(100.0)	772	(100.0)	1,682	(100.0)	518	(100.0)	

* , Pearson の χ^2 検定。 - , 検定を行わなかった。

表3 就業状況

項目	全体	平成16年度以前卒業	平成17年度以降卒業	卒業生でない	P値*
	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	
現在の職場					
病院	1,578 (54.7)	418 (56.4)	901 (54.8)	259 (51.5)	0.003
高齢者福祉施設	370 (12.9)	86 (11.7)	214 (13.0)	70 (13.9)	
行政	278 (9.6)	68 (9.2)	169 (10.3)	41 (8.2)	
学校	150 (5.2)	36 (4.9)	95 (5.8)	19 (3.8)	
給食受託企業（給食会社）	96 (3.3)	19 (2.5)	54 (3.3)	23 (4.6)	
研究教育（管理栄養士・栄養士養成施設）	88 (3.0)	30 (4.0)	41 (2.5)	17 (3.4)	
児童福祉施設	85 (2.9)	21 (2.8)	42 (2.6)	22 (4.4)	
障がい者福祉施設	52 (1.8)	10 (1.3)	27 (1.6)	15 (3.0)	
企業（栄養・食品）	34 (1.2)	7 (0.9)	24 (1.5)	3 (0.6)	
企業・事業所	28 (1.0)	6 (0.8)	17 (1.0)	5 (1.0)	
その他（8）	128 (4.4)	41 (5.5)	59 (3.6)	28 (5.6)	
	2,887 (100.0)	742 (100.0)	1,643 (100.0)	502 (100.0)	
管理栄養士・栄養士としての総勤務年数					
1-2年	436 (14.5)	19 (2.4)	389 (22.9)	28 (5.3)	<0.001
3-4年	774 (25.8)	45 (5.8)	671 (39.6)	58 (11.0)	
5-6年	913 (30.4)	203 (26.0)	606 (35.8)	104 (19.7)	
7-8年	665 (22.1)	449 (57.5)	26 (1.5)	190 (36.1)	
9年以上	215 (7.2)	65 (8.3)	3 (0.2)	147 (27.9)	
	3,003 (100.0)	781 (100.0)	1,695 (100.0)	527 (100.0)	
現在の仕事での勤務年数					
1-2年	883 (29.6)	110 (14.2)	639 (37.9)	134 (25.8)	<0.001
3-4年	938 (31.5)	172 (22.2)	649 (38.4)	117 (22.5)	
5-6年	705 (23.6)	198 (25.5)	389 (23.0)	118 (22.7)	
7-8年	371 (12.4)	268 (34.5)	11 (0.7)	92 (17.7)	
9年以上	87 (2.9)	28 (3.6)	0 (0.0)	59 (11.3)	
	2,984 (100.0)	776 (100.0)	1,688 (100.0)	520 (100.0)	
現職の採用条件となった免許					
管理栄養士免許	2,439 (81.8)	646 (83.4)	1,408 (83.3)	385 (74.2)	<0.001
栄養士免許	445 (14.9)	100 (12.9)	229 (13.6)	116 (22.3)	
その他の免許	19 (0.6)	1 (0.1)	14 (0.8)	4 (0.8)	
免許は採用条件でない	81 (2.7)	28 (3.6)	39 (2.3)	14 (2.7)	
	2,984 (100.0)	775 (100.0)	1,690 (100.0)	519 (100.0)	
雇用形態					
常勤	2,628 (87.8)	671 (85.9)	1,506 (89.2)	451 (85.7)	0.020
非常勤（嘱託・パート含む）	258 (8.6)	70 (9.0)	135 (8.0)	53 (10.1)	
非就業	109 (3.6)	40 (5.1)	47 (2.8)	22 (4.2)	
	2,995 (100.0)	781 (100.0)	1,688 (100.0)	526 (100.0)	
管理栄養士配置					
1人職種	946 (32.7)	245 (32.9)	512 (31.2)	189 (37.6)	0.028
複数配置（同一職場内）	1,683 (58.3)	434 (58.4)	987 (60.1)	262 (52.2)	
複数配置（職場では単独で仕事）	156 (5.4)	38 (5.1)	93 (5.6)	25 (5.0)	
その他	104 (3.6)	27 (3.6)	51 (3.1)	26 (5.2)	
	2,889 (100.0)	744 (100.0)	1,643 (100.0)	502 (100.0)	
先輩管理栄養士の指導					
受けている	1,841 (63.8)	455 (61.2)	1,098 (66.9)	288 (57.6)	0.001
受けていない	1,043 (36.2)	288 (38.8)	543 (33.1)	212 (42.4)	
	2,884 (100.0)	743 (100.0)	1,641 (100.0)	500 (100.0)	

* , Pearson の χ^2 検定。

表4 自己研鑽

項目	全体		平成16年度以前卒業		平成17年度以降卒業		卒業生でない		P値*
	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	
栄養士生涯学習参加回数（過去1年間）									
0回	1,263	(41.9)	331	(42.5)	716	(42.0)	216	(40.8)	0.181
1回	501	(16.7)	113	(14.5)	307	(18.1)	81	(15.3)	
2回	384	(12.8)	101	(12.9)	215	(12.7)	68	(12.9)	
3回	243	(8.1)	58	(7.4)	142	(8.4)	43	(8.1)	
4回以上	617	(20.5)	177	(22.7)	319	(18.8)	121	(22.9)	
	3,008	(100.0)	780	(100.0)	1,699	(100.0)	529	(100.0)	
健康・医療・食・栄養関連学会（研究会）入会									
入会している	1,020	(33.9)	321	(40.9)	561	(33.1)	138	(26.1)	<0.001
入会していない	1,990	(66.1)	464	(59.1)	1,135	(66.9)	391	(73.9)	
	3,010	(100.0)	785	(100.0)	1,696	(100.0)	529	(100.0)	
上記学会（研究会）への過去1年間の参加状況									
0回	1,627	(56.5)	401	(53.3)	906	(55.9)	320	(62.6)	<0.001
1回	559	(19.4)	127	(16.9)	338	(20.9)	94	(18.4)	
2回	312	(10.8)	105	(14.0)	157	(9.7)	50	(9.8)	
3回	168	(5.8)	55	(7.3)	93	(5.7)	20	(3.9)	
4回以上	217	(7.5)	64	(8.5)	126	(7.8)	27	(5.3)	
	2,883	(100.0)	752	(100.0)	1,620	(100.0)	511	(100.0)	
上記学会（研究会）の学術総会・地方会での発表									
ある（第一著者）	425	(14.7)	154	(20.4)	207	(12.7)	64	(12.5)	<0.001
ある（第一著者以外）	201	(7.0)	62	(8.2)	120	(7.4)	19	(3.7)	
ない	2,263	(78.3)	539	(71.4)	1,297	(79.9)	427	(83.8)	
	2,889	(100.0)	755	(100.0)	1,624	(100.0)	510	(100.0)	
上記学会（研究会）への論文投稿									
ある（第一著者）	84	(2.9)	30	(4.0)	41	(2.5)	13	(2.5)	0.017
ある（第一著者以外）	145	(5.0)	52	(6.9)	74	(4.6)	19	(3.7)	
ない	2,658	(92.1)	675	(89.1)	1,504	(92.9)	479	(93.8)	
	2,887	(100.0)	757	(100.0)	1,619	(100.0)	511	(100.0)	

* , Pearson の χ^2 検定。